

大月町 議会だより

90号
9月定例会



伝統を受け継ぐ若者たち



平成29年11月1日発行 高知県大月町議会

9月定例会

平成29年9月定例会は14日から22日までの会期で開き、陳情1件、条例1件、補正予算7件、決算認定10件、規約の変更1件、辺地計画1件、人事案件1件の計22議案を審議し原案のとおり可決しました。

一般質問は7人が登壇し、執行部をただしました。

もくじ

- 2 P pick up! ここを整備
- 4 P 補正予算
- 5 P 委員会報告など
- 6 P 決算報告
- 8 P 決算質疑
- 12 P 一般質問
- 19 P みんなの広場
- 20 P こんにちは

表紙写真によせて



炭焼きに励む若者たちがいる。

「僕らの笑顔を表紙に使い、住民に届けてほしい」という彼らの願いを受けとめた。大月町を背負う若者たちである。彼らの熱意と努力に期待したい。

pick up!

ここを整備

今議会は、一般会計補正予算で通所介護施設（さんご荘）の建て替えなどや、辺地に係る総合整備計画として、6地区（一切、安満地、橋浦、小才角、大浦、樫ノ浦）の整備計画を可決しました。

小才角中央線法面設計委託
500万円



大浦清水川線舗装工事
400万円



橘浦側溝整備工事
500万円



安満地消防車購入
754万円



写真は購入する車両と
同型のものです

さんご荘建て替え
3億830万円



旧特老跡地に建設予定

一切橋設計委託
1000万円



檜ノ浦道路法面整備および設計委託
5000万円



9月補正

ここに注目

議案質疑

平成29年度補正予算について、次のような質疑が行われました。

浦木 中学校の管理用備品購入費407万円は何を買うのか。また、なぜ必要なのか。

教育次長 教職員のパソコン20台とプリンターを購入する。セキュリティ対策で、インターネット用と事務用を分けるため。

高野 地域おこし協力隊備品費60万円の説明を。

まちづくり推進課長 9月より、映像によるデジタル配信を行うため、地域おこし協力隊員1名を採用した。そ

のためにパソコン1台と映像用ソフト1式、VTRが撮れる一眼レフカメラを買う。

高野 宿泊施設整備工事411万円の説明を。

まちづくり推進課長 ベルリーフ大月の客室テラス6台分の修繕費。

久米 住みよい環境づくり事業の内容は。

まちづくり推進課長 地区内道、排水路、集会所施設など、地区が行う事業の半分を補助するもの。

安岡 介護用備品費購入1400万円の説明を。

保健介護課長 特殊な浴槽2槽、それに付ける手すり、風呂場のマットレス、ベッド5基、ベッドサイドなどを購入する。

浦木 通所介護施設を取り壊した跡地をどう利用するのか。

町長 通所介護施設増設などに対応できるよう空けておく。



新しくなる
デイサービス「さんご」

平成29年度9月補正予算

会 計 名		補 正 額	総 額
一 般 会 計		4 億 5 5 3 2 万円	4 8 億 8 9 2 0 万円
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険	1 1 7 万円	1 1 億 9 8 9 4 万円
	水 道	7 7 8 万円	3 億 3 9 0 1 万円
	介 護 保 険	2 7 9 4 万円	8 億 3 5 6 2 万円
	漁 業 集 落 排 水 処 理 事 業	4 9 万円	5 4 1 万円
	後 期 高 齢 者 医 療	3 0 2 万円	1 億 4 8 9 万円
病 院 事 業		5 0 4 万円	5 億 3 0 7 6 万円



雨の中の現地調査

町道大浦潮平地区の 道幅拡張の陳情

産業建設常任委員会

本委員会は、現地調査と防波堤の間には個人査を行うとともに担当所有の土地が一部あり、課に説明を受けながらその他の境界と所有者審査した。現地についてが明確でない。したがって、この土地は国までの海側約1000メートルである。道路と判断する。

結果として、道路の拡幅をするには所有者と境界の確定が必要である。町単独の土地測量は他の地域との公平性に欠けるため、国土調査を実施し、土地の確定をすることにも用地交渉を行うことが最善である。また、確定後は大月町が土地利用

について協議を行いながら、地区とも連携し対応していくことが望まれる。

以上のことから、実施時期は未定であるが、道路の拡幅は必要であるので、一部採択し執行部に送付することに意見の一致をみた。

議会改革の中間報告

議会改革特別委員会

今年度は、議会報告会を12地区を対象に10カ所で実施した。延べ135名の参加があり、各地区で頂いた意見、要望、提言については、執行部から回答を求めるもの3件、報告するだけのもの32件に分け、平成29年8月4日に執

陳情

全国森林環境税の創設に関する意見書採択

(全員賛成)

規約

滞納整理に関する幡多広域市町村圏事務組合規約の一部を改正

(全員賛成)

人事

人権擁護委員

富田美恵子氏

大月町銚土602番地7

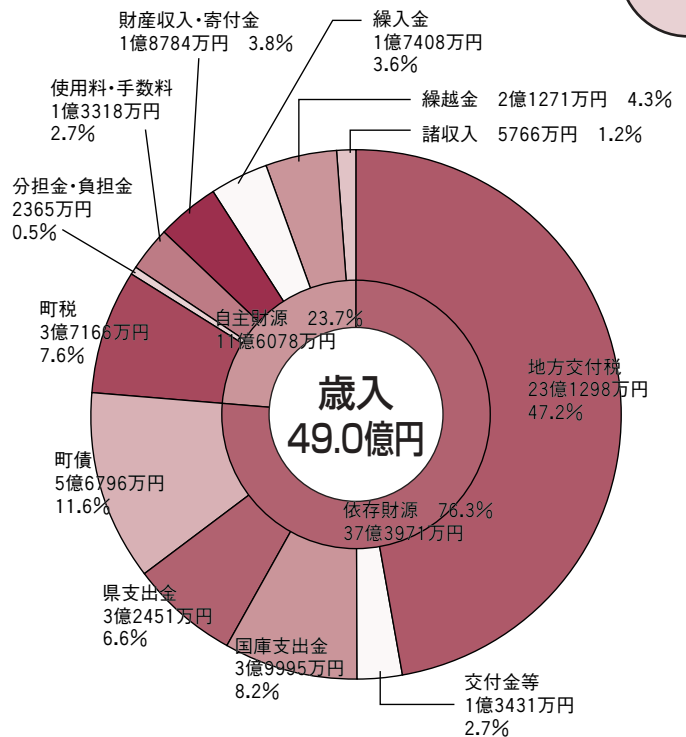
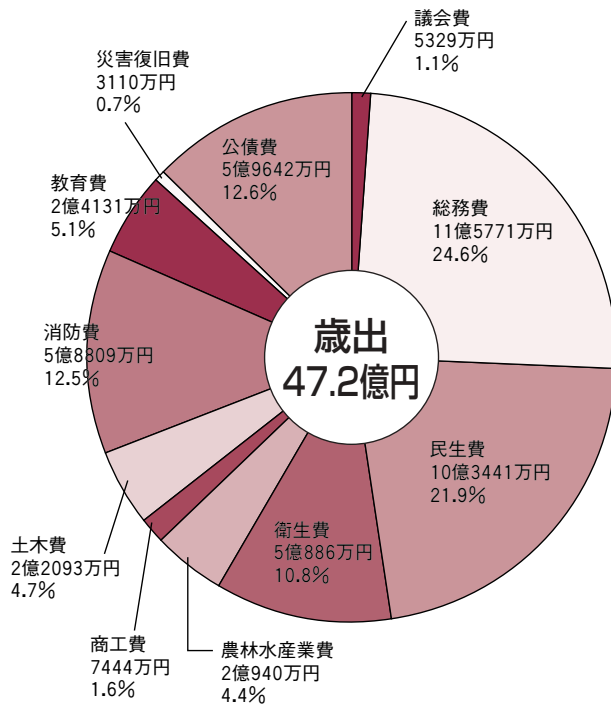


町民の思いを町長へ

8453万円黒字

決算報告

歳入歳出をグラフ化



財政健全化判断

平成28年度の決算は赤字がなく、前年度と比べ財政はより健全になっている。

区 分	内 容	平成27年度	平成28年度	早期健全化基準
実質赤字比率	自治体が自由に使える収入の標準額に対する、普通会計(一般会計、住宅新築資金等貸付事業)の赤字額の割合	—	—	15.00
連結実質赤字比率	自治体が自由に使える収入の標準額に対する、一般会計、特別会計全ての赤字額の合計の割合	—	—	20.00
実質公債費比率	収入に対する借金返済額の3カ年平均の割合	8.2	6.8	25.0
将来負担比率	自治体が自由に使える収入の標準額に対する、一般会計、特別会計、一部事務組合が将来負担すべき実質的な負債の割合	32.9	30.4	350.0

※ 資金不足が算定されない場合「—」を記載

公営企業の経営健全化判断

平成28年度の大月病院事業、水道事業、漁業集落排水処理事業は、前年度に続き資金不足となっていない。経営健全化基準は20.0%である。

平成28年度 一般会計決算

1億

平成28年度会計別歳入歳出決算を認定

全員賛成

会 計 名		歳 入	歳 出
一 般 会 計		49億49万円	47億1596万円
特 別 会 計	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム	3億46万円	3億46万円
	住 宅 新 築 資 金 等 貸 付 事 業	49万円	3064万円
	国 民 健 康 保 険	11億8625万円	11億8540万円
	水 道	1億8074万円	1億7908万円
	介 護 保 険	8億877万円	7億8786万円
	漁 業 集 落 排 水 処 理 事 業	516万円	456万円
	後 期 高 齢 者 医 療	9241万円	8938万円
病 院 事 業 会 計		5億353万円	4億9616万円
計		79億7829万円	77億8951万円
会 計 間 重 複 額		△ 4億9560万円	△ 4億9560万円
純 合 計		74億8270万円	72億9391万円

監査委員の意見(要旨)

町民福祉の向上を

平成28年度一般会計の歳入・歳出総額は、前年度に比べ減少している。

事業運営の一層の効率化および事業収入の増収に取り組むべきである。

歳入では、自主財源の根幹である町税の収入額は増収となったが、滞納繰越額も増加した。

大月病院は、患者数および医業収益はともに減少している。これは、医師1名が減になったことなどが要因である。

特別会計の歳入・歳出総額は、前年度に比べ全会計で増加している。これは主に、施設整備に係る長期債償還元金の償還金、国保会計では、療養給付費ならびに病院保険事業分の繰出金、水道会計では、水道施設整備費などが増加したことによる。

今後においても、入院患者・外来患者に対するきめ細やかな医療サービスの向上に努め、住民から信頼される病院として、患者数の確保に向け医師・職員一同がさらなる経営改善および業務の効率化を図るよう一層の努力を望むものである。

一般会計からの繰入金は、必要最小限にとどめるよう努力され、

集中質疑

平成28年度の決算を9月20日、21日の2日間
にわたり、全員協議会で各課別に質疑をしまし
た。その概要は次のとおりです。

建設環境課

橋梁点検

小松 長寿命化修繕計
画について説明を。

答 5カ年で町内126
橋を点検するもの。修
繕の必要な箇所があ
れば直していく。

合併浄化槽の点検は

安岡 合併浄化槽設置
後の点検は、適正に実
施しているか。

答 高知県環境検査セ
ンターにより、毎年1
回法定検査をしている。



新しくなった油圧ショベル

舗装は別々に

浦木 弘見中央線と本
田線の舗装が一緒にな
り、通行に支障を来し
た。別々にできなかった
のか。

答 財源確保のため同
時発注となり、迷惑を
かけることになった。
今後そのようなことの
ないよう検討する。

どこで使うのか

高野 購入する油圧シ
ョベルはどこで使うの
か。

答 田城にある環境ク
リーンセンターで使用。

草刈りを多く

野村 国道・県道の草
刈りは年2回を3回に
できないか。

答 昨年も要望があり、
県には要望している。

大月荘

土地対策室



皆さんの協力に進めています

正職員に採用を

安岡 臨時職員といえ
ども責任ある仕事だ。
必要な職員なら正職員
にすべきではないか。

答 経費の8割程度が
人件費となっている。
全て正職員にすると、
現在の収入では運営で
きなくなる。

調査遅延の対処は

野村 遅延の所は、あ
とで予算をつけてやる
ということか。

答 遅延は、平山、柏島
春遠。平山は閲覧はで
きているが、一部調査
に入らないと法務局に
送れない。春遠、柏島
は、まだ閲覧もできて
いない。調査遅延の部
分は町費で行うこと
になる。

平成28年度 決算 全議員

町民福祉課

子ども見守り事業は 使い道は

野村 子ども見守り推進交付金の事業内容は。

答 児童見守り相談員が、子育て相談のある家庭を訪問し、悩みの解消に努めている。

安原 子どもの見守り体制推進事業備品購入費は何を買ったか。

答 相談員のパソコン、机、キャビネット、テーブルを購入した。



大盛り上がりの輪投げ大会

税務課

滞納理由の判断は

安岡 滞納理由に生活困窮をあげているが誰が判断するのか。

答 納税相談等で課が判断している。



保健介護課

不用額の要因は

谷 予防接種個別委託料の不用額の要因と予防接種の内容は。

答 対象者が全員受けなかったのが要因。予防接種はインフルエンザ、麻疹、風疹、子宮頸がん、日本脳炎など。

補助金で何を

野村 介護基盤緊急整備事業費補助金100万円は。

答 ほっとセンターの利便性を高めるため、玄関の段差を解消した。



広がったほっとセンターの玄関

産業振興課

わな免許取得人数

安岡 補助を受けてわなの免許を取った人数と、その効果は。

答 昨年度の免許取得者は4名。新規狩猟者に対しては、わなを1基配布して設置してもらっている。

有害鳥獣は減か

谷 有害鳥獣は減ってきているのか。

答 かなり捕獲してるが、いちごっこだ。サルの狩猟者は少なく、あまり効果が上がっていない。

青年就農者は

浦木 青年就農者は何名来て何名定着しているか。

答 5名来て全員残っている。

豚においの対策

谷 豚においの対策は。

答 西部家畜保健所が月1回見回りに来て指導をしている。



大月病院

病院側の努力を

浦木 患者さんが安心できる、病院全体の雰囲気上げるさらなる努力を。

答 その通りだと思う。地域に病院があつてよかったと思える病院を目指して、今後も努力していきたい。



頼りにされる病院を目指す

企業債の借り換え

中平 企業債で利率4・4%のものがある。低金利で借り換える考えはないか。

答 借換債についてはまだ財政と話してないが、借り換えができるかどうか協議する。

危機管理課

住宅耐震工事

小松 住宅耐震工事は何の業者でもできるのか。また、上限はいくらか。

答 県の登録業者から選んでもらうようになっている。登録された業者は大月にもいる。耐震改修工事は92万5000円が上限。

消防団員の確保

安岡 消防団募集という垂れ幕も見るが、欠員は何名か。女性団員の確保は。

答 253名の定数で、現在232名。21名の定員割れ。

女性団員は4名在籍しているが、入団希望者が少ない状況。各地区の分団長にもお願いしている。



私たちに任せてください

まちづくり推進課

地域おこし協力隊

久米 地域おこし協力隊の活動内容は。また、副業も可能か。

答 7名で外商・観光振興・農業振興・移住相談・集落活動センター事業などの活動をしている。

勤務日以外は、副業をしても構わない。

協力隊費は

浦木 地域おこし協力隊に出した総額は。

答 人件費、諸経費を含め約2058万円。

フォロワー体制

野村 協力隊のフォロワー体制は。

答 月に一度の反省とミーティングをやっている。

納税基金

中平 ふるさと納税基金、平成29年3月末で1億4000万円の有効活用は。

答 納税者は目的別の要綱がある。教育・子育て、福祉・医療、建設・産業・雇用などに割り当てられる。

総務課

モニター住宅整備

谷 移住者向けモニター住宅として28年度の整備は。

答 予算上は6棟ある。繰り越した部分であと3棟の空きがある。なかなか貸してくれる人がいないので、広報でも随時募集するようにしている。

収入未済対策

小松 住宅使用料の収入未済額があるが、この対策は。

答 催告書を出したり、電話相談をしたりして未済額を回収するように努力している。



大月はいい所ぜよ！

教育委員会

学習支援員

安岡 学習支援員賃金はどういうものか。またその効果は。

答 特別支援学級に対する支援員の賃金。

1学年から6学年までの支援で、1人の先生ではなかなか対応できない状況もある。

リース料は何台分

野村 タブレットリース料は何台分で期間は。

答 年間約75万円です。期間は5年。

子ども教室の先生

小松 放課後子ども教室の先生は何人か。また、毎日か。

答 現在21名。月曜日から金曜日まで毎日担当してもらっている。



大変よくできました

ふれあい市

生産、出荷計画は

個別に情報収集／町長



高野真司 議員



トウモロコシ畑、今年の出来は？

問 ふれあい市への出品者が毎年作付けしている作目、新規作付け計画、栽培面積、品種ごとの収穫予想量のうちで、ふれあい市への出荷予定量の把握は。

岡田町長 ふれあい市の出品者から個別の聞き取り等で情報収集を行っている。
商品の販売状況は、出品者に随時情報が届く連絡網を整備している。また、売れ行きを見て追加納品の連絡もしている。

職員の研修状況

問 一般の方は、ふるさと振興公社で働いている職員を正職員、臨時職員の区別なしに見ている。全ての職員の研修状況は。

岡田町長 正職員については、先進地での研修、県主催の直販所活性化など、本年度すでに7回の研修を行っている。販売職員については、経験者を雇用し能力向上に取り組んでいるが、研修については公社で検討したい。



お客さんとの距離の近さが一番

ふるさと納税

問 平成28年度のふるさと納税額と平成29年度に繰り越した未発送個数、その金額は。

久松まちづくり推進課長 平成28年度のふるさと納税額は1億604万6000円、対前年度比1億120万の増。件数は、1万2329件で、年度を繰り越した返礼品が4718個、金額にして2688万6000円となっている。

問 ふるさと納税返礼品の新規開発と掘り起こした実績、雇用面への効果は。

岡田町長 平成27年度では出品数が31品目、出品者数18業者。28年度では出品数99品目、出品者数28業者になっている。

本年度も新たな商品や出品者を募集するとともに、出品者協議会において露地野菜など、安定的に供給できる商品を検討している。
久松まちづくり推進課長 雇用効果として、ふるさと納税担当職員1名、地域おこし協力隊員1名、パート2名の返礼作業などを行う新たな雇用が生まれた。

救急搬送

本人や家族の希望も大切に

消防組合へ報告する／町長

岡田町長 搬送先は、傷病者の状態、医師の指示、搬送距離などを考慮して救急救命士が判断しているのだろうが、本人や家族の意思が少しでも考慮されるのか。

人・家族の意思を受け入れるには、幡多西部消防組合救急業務規定の改正が必要である。その点については、医療機関、専門の方々と検討していただかなければならない。

岡田町長 救急救命士が、傷病者の状態を細かく病院と連絡を取り合いながら、その症状や病態等により、医師の指示を仰ぎながら病院を決めている。本

岡田町長 本人や家族の意思の尊重も踏まえて、専門家の方々と協議をしていただくよう、幡多西部消防組合に報告する。

岡田町長 本人や家族の意思の尊重も踏まえて、専門家の方々と協議をしていただくよう、幡多西部消防組合に報告する。



浦木秀雄 議員

産業振興

芋、炭、うるめの加工・販売を

意見があれば対応する／町長



岡田町長 大月町は、人口減少をくい止め、雇用を創出し、町民の生活を安定させるために「大月町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を打ち出した。しかし、雇用の創出については、まだまだ具体策が見えない。

そこで、雇用策として3つの提案をする。

① ひがしやま、芋焼酎、芋飴など芋の加工販売を目指すこと。

② 脱臭剤など炭の加工販売を目指すこと。

③ まき網で獲れるイワシやうるめを使って、DHAやEPAの製品化を目指すこと。

これら3つのことを検討して、できるところから取り組んではどうか。

岡田町長 芋づくりは、龍ヶ迫、芳ノ澤、頭集が取り組んでいる。これが一本化になり、6次化に向けての意見があれば対応していかないといけない。すくも湾漁協、関係者から話を聞いてみるだけ早く取り組みたいと考える。炭は、安定的経営状態を最優先しなければならぬと思っている。炭の6次化については今後の課題である。まき網の6次化は、関係者から話を聞いてみるだけ早く取り組みたいと考える。炭は、安定的経営状態を最優先しなければならぬと思っている。炭の6次化については今後の課題である。まき網の6次化は、関係者から話を聞いてみるだけ早く取り組みたいと考える。



和気あいあいで網仕事

農業振興

どのように取り組んでいくか 一次産業の基盤強化／町長



小松重富 議員

問 高齢化に伴う労働力不足は、今後さらに深刻化していくであろう。農業の担い手の確保や農業生産の維持拡大をどのように取り組んでいくか。

また、施設園芸の生産性向上を図る環境制御技術の普及促進と、新規就農者の営農定着への状況は。

岡田町長 第一次産業の基盤強化を基本に、後継者を育て、新規就農者を増やし、経営の近代化を図りながら、持続可能な産業として取り組みを進めていく。施設園芸の制御技術導入に3戸が取り組み、成果を上げている。新規就農者は2名が露地野菜に取り組んでいる。



拠点としての整備が待たれる

道の駅・大月

改修計画は

総合的な拠点へ／町長

問 道の駅大月は、農林水産物の売り上げも伸び、ふれあいの場になっている。少子高齢化の進む中、地産地消・地産外商の強化を図ることが、地場産業の拡大や雇用の促進につながる。総合力の発揮できる機能を持った拠点としての改修計画は。

岡田町長 道の駅を拠点とした「ふれあいパーク大月多機能拠点化基本構想」がまとまり、今後は基本計画を進め、大月町の農業・観光といった産業振興や防災機能も含む総合的な拠点として整備していく。

子育て環境づくり

子育て支援と少子化対策は

環境整備に取り組む

／教育長

問 若者が定住し、結婚して、働ける生活環境を作り出すことが、子育て支援と少子化対策の基本である。将来の人口ビジョンも踏まえ、出生率の低下など、我が町の現実も捉えた支援と対策をどのように進めていくのか。

浜崎教育長 若者の定住促進、産業振興の推進の基点となるのが、子育て環境づくりと少子化対策である。若い世代が子育てに不安や負担の少ない、喜びや生きがいを感じることのできる環境整備等に取り組んでいく。



日々の成長が楽しみです

マグロクラスター事業

理念やビジョンは

地域全体の活性化／町長

問 マグロの町として事業展開しているが、このクラスター事業に、理念やビジョンはしっかりしたものがあるのか。

協力・連携し事業を進めるものである。国内屈指の生産量を誇る養殖クロマグロを核に、水産業や商工観光などの地域のにぎわいを支える事業者などが協力することで、町内外への流通促進および交流人口の拡大など、

地域全体の活性化を行うことを理念としている。

将来ビジョンとして

は、町内で養殖マグロを提供できる店舗を増やすことで、町内外の養殖マグロの流通を促進し、さらに商工観光

等との連携による交流人口の拡大などに取り組み、その付加価値を地域へ普及、そして還元される仕組みを構築したいと考えている。



野村満久 議員



出荷されるクロマグロ

柏島、夏場の現状

他海岸の整備を

当面は檜西海岸を整備／町長

問 この夏、柏島は観光客で非常に混雑し、問題が浮き彫りになった。駐車場整備やゴミ問題の対応および他海岸を早急に整備し、観光客の分散を。

岡田町長 駐車場をはじめとする受け入れ体制の整備は、柏島地区の方々と協議して進めていかなければならない。



絶景かな！檜西海岸

地域、漁協、観光協会と連携し、今年のような事態が起きないよう担当課に指示を出して早急に取り組みたい。他海岸については、

龍ヶ迫、白浜はすばらしい海岸を有しているが、アクセス道に問題があるため、当面は檜西海岸を整備していきたい。

夏場の観光客対応

観光客の受け入れ対策を 関係者と協議する／町長



安岡邦彦 議員



夏場にぎわった柏島

問 夏には多くの観光客が本町を訪れ、特に柏島では大変なにぎわいであった。しかし、一部の観光客のマナーが悪く、地元住民とトラブルが発生した。安全に楽しく過ごすため、誘導員や監視員を配置するなど受け入れ態勢を整える必要があるのではないか。

岡田町長 土・日曜日には誘導員を配置していた。観光客へのマナー向上の啓発を行い、大月町に来てよかったと思えるように、町・観光協会・地区と話し合い、受け入れ態勢を整える。

防災対策

防災倉庫の備品充実を 地区との協議により 進める／町長



自主防による救命講習

問 地理条件で防災拠点整備ができない5地区については、救助の限界あるいは公助の手が届く72時間を耐えられる資器材の充実が必要ではないか。

岡田町長 備蓄倉庫は全て地区に設置している。地区との協議により必要な物があれば整備していく。

岡田町長 自主防の防災訓練への温度差は感じている。機会あるごとに訓練の重要性を説明しているが、さらに啓発していく。資器材については、平等に整備していくのが基本であるが、不足する物があれば補充する方向で進める。

**自主防の活動は
さらに啓発を
進める／町長**

問 自主防は全地区に組織されているが、海岸部と農村部では活動に差があると推測する。共助体制を強固にするため活動した地区には、優先して資器材の整備はできないか。



山本恒和 議員

問 今年の3月、NHK高知放送局から宿毛湾沿岸部へのFM放送が開局されたが、町内全域は網羅されていない。南海トラフ大地震が予測される中、ラジオ放送は災害時の重要な情報源として町内全域を受信対象にすべきではないか。また、難聴地域への対策は。

難聴地区は存在しない

／町長

岡田町長 平成26年度に実施した36カ所の調査結果では、受信しづらい箇所はあったが、難聴地域は存在しない。富岡危機管理課長 山かげなどの電波を遮蔽する場所での情報収集は困難になる。津波の被害が想定される沿岸部は、平成27年からの2カ年で防災行政無線をデジタル化し、役場親局との相互通信ができるアンサーバックシステムを各子局に設置し通信手段は確保している。

NHKラジオ放送

難聴地域の対策は

自主防災組織活動促進

災害時の共助の強化を

支援事業の創設を検討／町長



訓練でも一生懸命

問 災害対応では自助・共助・公助の原則がある。課題は、共助である。地区によって差異があるので共助における行政支援を行い、備蓄品の自主購入制度を導入し共助意識を高め強化すべきではないか。

岡田町長 地区へは必要とする資器材の配布を行い、その後は資器材の追加補充を行っている。自助として3日間、公助として1週間分の生活物資の備蓄を目標としている。被災後の備蓄食糧の備えや管理は、住民・地区で自助・共助の役割を図っていたきたい。共助意識を高め活動を促進する方法として、支援事業の創設を検討したい。

観光産業の未来構想

観光拠点の分散を

一極集中を緩和／町長

問 今年の8月は、柏島に予想以上の観光客が訪れ、その結果、迷惑行為が多発した。観光事業を見直し、大月の各地に観光拠点を作り、観光客の分散化を図り、一極集中による弊害を回避する。また、「おおつき憲章」等を制定し、啓蒙・宣伝活動に努めるべきではないか。

岡田町長 観光拠点を各地に作り、観光客の分散化を図り、一極集中を緩和したい。本町の観光振興については、大月町観光事業審議会と協議し、観光地のPRと合わせて、観光客のマナー向上につながるルール作りを進め、周知徹底を図り、観光産業を発展させたい。



看板をよく見てね

不妊治療助成

町独自の助成制度創設を

来年度から対応／町長



安原明彦 議員



赤ちゃんを運んでくるコウノトリ
(撮影場所：弘見 提供：三浦美知代さん)

問 不妊治療を受けるには、専門病院に通院しなければならず、治療費も高額である。市町村独自の不妊治療助成制度は、全国的にあまり整備されていない。大月町独自の助成を考へるべきではないか。

岡田町長 現在、町内には不妊治療の対象となる方々は把握できていない。少子化対策の一環として、一般不妊治療と特定不妊治療について、来年度から対応する。

河川について

アシや土砂の撤去を

積極的に要望していく／町長

問 近年、予測困難な異常気象で川の氾濫が全国的に起きるなど甚大な被害を及ぼしている。本町に目を向けると、川底が見えないくらい土砂が堆積し、アシが生い茂っている所がある。天災が人災にならないよう、河川のアシ、土砂の撤去を。



川をせき止めるアシ

岡田町長 毎年途切れることなく、県土木に予算を要求している。県の予算にも限度があるが、積極的に陳情・要望していく。

みんなの 広 場 私の願い

ナスに取り組んで

春遠 鈴木美紀^{みき}さん

私たち夫婦は、結婚
2年目からハウスでナ
ス栽培を始めました。
早いもので、就農して
から23年になります。

自然相手の仕事なので、
思い通りにならない時
もありますが、いろい
ろな方々に助けられて
頑張っていきます。
私たちがハウスを始
めます。



町議会傍聴記

周防形 河内良澄^{よしずみ}さん

久々4年ぶりの町
議会傍聴。14、15名の
傍聴者。3分の1は女
性。多い方。

質問議員の多くが、
この8月の柏島の観光
客の状況とこれからの
対応を―大月町には誇
るべき景観は多い。深
い議論が望まれる。



こんにちは

大月マグロ養殖事業の先駆者



柏島

濱野 高彦 さん (82歳)

たかひこ

日本のマグロ養殖事業の先駆者の一人である濱野高彦さんに、当時のことをお聞きしました。「昭和52年頃、ハマチ養殖が生産過剰で大幅に値下がりし、小規模事業者は生き残れなくなっていた。そこで、東京・築地市場への出荷を目指すマグロ養殖を決心し水産試験場を訪ねたが、わずか数尾の試験養殖でしかなかった。文献も無く教えを乞う人もいない中、独り養殖技術を模索する日々が続いた。マグロ養殖は歩留まりが低い。課題は、ストレス解消のために餌を改良し生存率を上げること。そして、生きたままでの輸送方法であった。」

昭和57年のマグロの試食会では、水産庁より味の面で養殖のイメージが変わったと高く評価された。昭和59年には大手水産事業会社と提携し事業拡大を図り、その4年後には6000尾の稚魚を仕入れ、その半数を10kg前後で出荷できるようになった。平成3年には、(財)海外漁業協力財団より技術指導員としてオーストラリアに派遣され、マグロ畜養の成功を見届けて、平成7年に帰国。マグロ養殖事業を引退した」と、熱く語ってくれました。今は、多くの若者が雇用され大きく発展した大月のマグロ養殖事業の行く末を静かに見守っています。

編集後記

この夏、大月町に多くの観光客が連日訪れた。道の駅・大月、柏島、檜西海岸等、例年にないにぎわいだった。経済的効果も大いにあったと思われるが、反面多くの課題も見えてきた。

観光の町・大月を発展させるためには、官民一体で英知を絞り、協力し合って、住民にも観光客にも満足していただける環境づくりが急務である。

(久米里志)

議会広報常任委員会

委員長	浦木 秀雄
副委員長	山本 恒和
委員	安岡 邦彦
委員	野村 満久
委員	久米 里志

発行／高知県大月町議会
編集／議会広報常任委員会

高知県幡多郡大月町弘見2230
TEL(0880)73・1682

印刷
有限会社 宿毛印刷